

「三位一体の中の聖霊」

1A 神の奥義 1テモテ3章16節

1B 旧約聖書

2B 新約聖書

2A 神の属性と働き

1B 属性

2B 働き

3A 聖霊による聖書

4A 聖霊によって関わる神

本文

私たちは聖霊の学びシリーズの第二回に入ります。聖霊の学びを通して、私たちのご聖霊と近く、親密で、個人的に関わっていくことができることを目的として学んでいます。前回、第一回目は、聖霊には位格、あるいは人格をお持ちであるということでした。単なる本質やエネルギー、力ではなく、人間が知性、感情、意志を持っているのと同じように、聖霊にも人格があるということです。そして、イエス様が弟子たちに聖霊について語られる時に、「もうひとりの助け主」という名でご紹介されました。イエスが弟子たちといつも共におられて、助けが必要な時に助けてくださったのと全く同じように、聖霊が私たちと共に、また内におられて、私たちを助けてくださいます。

そして今晚は、ご聖霊が神であられ、三位一体の三つの位格の一つであられる方であることを見ていきます。

1A 神の奥義 1テモテ3章16節

「三位一体」という言葉は、既に一般の人々の間でも使われるようになったのですが、だからむしろしっかりと定義しないといけません。三位一体とは、「神はひとりであられ、三つの人格(あるいは位格)を有している。」ということです。つまり、父なる神がおられて、神であられるが、子なるキリストも神であられ、聖霊も神であられる。しかし、神はひとりである、ということです。ですから「一体」というと、一つの体しかないように聞こえますが、「三位一致」と言えばもっと分かり易いかもしれません。

これは、キリスト教会が後で勝手につけた考えではありません。聖書を読めば、そのような結論にならざるを得ない、神の真理です。人間の頭では、「神が一人であれば、キリストは神ではないし、聖霊もそうではない。」と結論づけるでしょう。それが昔から異端の教えとして存在していました。今、そのように教えているのはエホバの証人です。そして、「神はひとりではなく、三つの神が存在する。」というように教える人たちもいます。これも異端です。そして、「イエスのみが神であり、父な

る神も、聖霊も、イエスの別の名前だ。」という人たちもいます。つまり、七色変化ならず、三色変化です。これは、御父と御子と聖霊が別個の人格を持っていることを否定するものです。頭で理解できないのは、「 $1+1+1=3$ 」という計算をしているからだと良く言われます。そうではなく、「 $1 \times 1 \times 1=1$ 」と考えればよい、と言います。それでも、まあ完全に納得することはできませんが。

あらためて三位一体の定義を、プロテスタントの宗教改革者が告白した、「ウェストミンスター信仰告白」からご紹介します。「*神の統一性の中に、ひとつの本質、力、永遠性をもつ三つの人格がある。すなわち、父なる神、子なる神、聖霊なる神である。*」¹

これが難しい教理、教えの真理であると思われるかもしれません。なぜ、このようなことを学ばなければいけないのか？と思われるかもしれません。教理を強調しないで、神との生きた体験が大事なのではないか？と感じられるでしょうか。いいえ、三位一体の神を知らなければ、もろに生ける体験を失います。私たちは人の知性では決して説明できないこの真理ですが、自分の霊においては知っています。実は私は、信仰をもってから二年ほどして、一か月ほど熱心に通っていた教会は三位一体を否定する異端でした。その否定された教えを聞いた時に、恐ろしい体験をしました。すべて自分の生きていることは無意味である。これは自殺しても消えることのない虚無である。サタンの闇の部分に触れてしまったような体験でありました。

実は、聖書そのものが、この真理を「偉大な奥義」と言っています。「確かに偉大なのはこの敬虔の奥義です。「キリストは肉において現われ、霊において義と宣言され、御使いたちに見られ、諸国民の間に宣べ伝えられ、世界中で信じられ、栄光のうちに上げられた。(1テモテ 3:16)」ギリシヤ語の他の写本には、「神は肉において現われ」となっています。つまり、神が肉体を取られて、それで御霊によって義と認められた、ということです。三位一体の神の宣言です。これを、イエス様が天に昇られて、聖霊による啓示が与えられた使徒たちが、三位一体の奥義をはっきりと宣言したものであります。

1B 旧約聖書

それでは、旧約聖書から三位一体の神が書き記されている部分から見ていきましょう。今、少し話しましたように三位一体は、新約聖書において十分に明らかにされており、旧約聖書ではそれほどでもありません。けれども、明らかにされています。

初めの言葉は、「初めに、神が天と地を創造した。(創世記 1:1)」ですが、実はここに三位一体の神の足跡があります。「神」という言葉がヘブル語で「エロヒム」です。ヘブル語で語尾に「イム」が付きますと、複数形になります。ユダヤ教では、これを「強調の複数形」などと呼んでいます。けれども、創世記1章を読み進めると、そのまま複数形で読んだほうがよくなります。1章 26 節で

¹ <http://www.ogaki-ch.com/WCF/text/wcf02.htm>

す、「そして神は、「われわれに似るように、われわれのかたちに、人を造ろう。そして彼らに、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地をはうすべてのものを支配させよう。」と仰せられた。」
「われわれ」と神はご自分のことを言われています。アダムが罪を犯した後にも、神は同じようにこう言われます。「神である主は仰せられた。「見よ。人はわれわれのひとりようになり、善悪を知ることになった。今、彼が、手を伸ばし、いのちの木からも取って食べ、永遠に生きないように。」(3:22)」やはり、ここでも「われわれ」となっています。

そして初めの聖霊の言及が、戻りまして1章2節にあります。「地は形がなく、何もなかった。やみがたいなる水の上にあり、神の霊は水の上を動いていた。」神の霊が水の上を動いておられ、そして父なる神が、「光をあれ」という言葉によって光ができました。ヨハネ1章1節で、イエス・キリストが「ことば」と呼ばれています。三位一体の神がここに関わっておられ、それでエロヒムであり、かつ「われわれ」という人称代名詞を使っておられるのです。

そして神がひとりであることを高らかに宣言している箇所が、旧約聖書にあります。申命記6章4節を開いてください。4-5節を読みます、「聞きなさい。イスラエル。主は私たちの神。主はただひとりである。心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。」ここは、ユダヤ教で「シエマ(聞きなさい)」と呼ばれているもので、彼らの信仰の支柱になっているものです。イエスご自身が、最も大切な律法は何ですかと尋ねられた時に、この律法を引用されました。(もう一つ、「自分自身のように隣人を愛しなさい」という命令も引用されました。)

ですから、神が唯一であると聖書は宣言しており、私たちはただひとりの方を信じています。しかし、その「ひとり」の中に実は、複数の人格を見ることができるのです。「ひとり」というヘブル語は、**אֶחָד**です。エカドは複数でありながら単体であることを表す言葉です。単複形と呼んだらよいでしょうか、例えば「一つの手」という時に五本の指があります。

複数なのに一つである…三位一体、あるいは三位一致の奥義は実は、すばらしい神の本質であり、また働きであります。ひとりの神の中に交わりがあるからです。父なる神は子なるキリストを愛しておられ、子なるキリストは父なる神を愛し、この方に従われます。まったく同じ本質をもっており、キリストが御父に劣っているのでは決してありませんが、自ら服従することにより、父なる神と一つになっておられるのです。そして聖霊は、キリストの願いによって父なる神から遣わされている方であり、キリストを証しておられる方です。ですから神に関わるということは、この交わりの中に入ることを意味しています。神は愛であるというとき、すでに神はご自身の中で愛の交わりを持っています。神は人格の関わりをすでにご自身の中で持っておられるので、私たちにも人格をもって関わることをおできになるのです。

そして、民数記6章23節を開いてください。祭司アロンが、イスラエルの民を祝福(祝福して祈禱する)するよう命じられているところです。「アロンとその子らに告げて言え。あなたがたはイス

ラエル人をこのように祝福して言いなさい。『主があなたを祝福し、あなたを守られますように。主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。』(民数 6:23-26)「主が、～ように」と、三回ありますね。ヤハウェがあなたを祝福し、ヤハウェがその御顔をあなたに照らし、恵みを与え、ヤハウェが平安を与えられるようにと三度出てきます。三位一体の神からの祝福です。

そしてイザヤ書 6 章 3 節を開いてください。イザヤが天におられる神の御座の幻を見ました。御使いセラフィムが叫んでいます。「聖なる、聖なる、聖なる、万軍の主。その栄光は全地に満つ。」聖なる、が三度使われています。ここにも、三位一体の神の姿が反映されています。

このようにして旧約聖書で、三位一体の神がそれとなく示されているのですが、イザヤ書 48 章 16 節を開いてください。「わたしに近づいて、これを聞け。わたしは初めから、隠れた所で語らなかつた。それが起こった時から、わたしはそこにいた。」今、神である主は私を、その御霊とともに遣わされた。」御霊とともに、キリストを父なる神が遣わされたとあります。まさに、これが新約聖書の舞台であります。したがって、キリストと共に働かれる聖霊のお姿を私たちは新約聖書ではっきりと認めることができます。

2B 新約聖書

イエスがお生まれになる時から、聖霊が共に働かれている姿を見ることができます。「御使いは答えて言った。「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる者は、聖なる者、神の子と呼ばれます。(ルカ 1:35)」父なる神が聖霊によって、キリストを人としてこの世に現われるようにされました。そして、イエスの公生涯は約三十歳の時に始まります。バプテスマを受けられましたがこう書かれています。「さて、民衆がみなバプテスマを受けていたころ、イエスもバプテスマをお受けになり、そして祈っておられると、天が開け、聖霊が、鳩のような形をして、自分の上に下られるのをご覧になった。また、天から声がした。「あなたは、わたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ。」(ルカ 3:21-22)」イエスがおられ、聖霊が鳩のように下られて、そして父なる神が天から、このイエスがご自分の愛する子であると宣言されました。

ところで、先ほどお話した異端についてですが、七色変化ではなく三色変化のように信じている人たちがいます。イエスのみが神であり、御父と聖霊はイエスの別の呼び名であるというものです。しかし、この箇所はそれが不可能であることよく教えていますね。イエスがバプテスマを受けている時に聖霊が降りて来られているのです！ どうやって一つであるのでしょうか？そして天からの声は腹話術でしょうか？ひとりの神なのですが、別個の人格なのだということを知ることは大切です。

そして前回、読みました、イエス様の聖霊についての約束の部分をもう一度読みましょう。「わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。そ

の助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。その方は、真理の御霊です。世はその方を受け入れることができません。世はその方を見もせず、知りもしないからです。しかし、あなたがたはその方を知っています。その方はあなたがたとともに住み、あなたがたのうちにおられるからです。(ヨハネ 14:16-17)父なる神、そしてイエスご自身、それからひとりの助け主の三つの位格がそれぞれ関わっておられます。

そして、イエスが弟子たちにすべての国民を弟子としなさいと命じられた時に、「それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け…(マタイ 28:19)」と言われました。ここは明確ですね、「父、子、聖霊の御名」とあります。しかも、ここの「御名」は単数形になっていて、複数形ではありません。三つの人格がありながら、なお一つの名であるということです。ちなみに、キリスト者はこのバプテスマを受けます。イエスご自身が受けられた水のバプテスマに倣って、父なる神、聖霊、そして御子ご自身につくバプテスマを受けるのです。

そして使徒の働きにおいて、ペテロがイエスの働きをコルネリオに話す時に、「それは、ナザレのイエスのことです。神はこの方に聖霊と力を注がれました。(10:38)」と言っています。三つの位格が共に働かれています。

使徒たちの書簡にも、数多く三位一体の神が紹介されています。パウロは自分の働きを紹介している中でこう言っています。「それも私が、異邦人のためにキリスト・イエスの仕え人となるために、神から恵みをいただいているからです。私は神の福音をもって、祭司の務めを果たしています。それは異邦人を、聖霊によって聖なるものとされた、神に受け入れられる供え物とするためです。(ローマ 15:16)」そしてエペソ 4 章 4-6 節を読みましょう。「からだは一つ、御霊は一つです。あなたがたが召されたとき、召しのもたらした望みが一つであったのと同じです。主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つです。すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのものの中におられる、すべてのものの父なる神は一つです。」御霊が一つ、主が一つ、そして父なる神が一つと、パウロははっきり言っています。彼はもちろん、三つの神々がいることを信じておらず、「唯一の神以外には神は存在しない」と他の箇所で言っています(1コリント 8:4)。

旧約聖書にある、祭司アロンによる祝祷を先ほど読みましたが、新約聖書にも祝祷があります。パウロがこう祈りました。「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがたすべてとともにありますように。(2コリント 13:13)」このように、聖霊は御父と御子と並んで、神であられる方であることを見ていくことができました。

2A 神の属性と働き

1B 属性

そして次に、ご聖霊が神であることを知るために、神にしかない性質、神の属性を見ていきたい

と思います。神にしかない性質を見れば、聖霊が神であることが分かります。「永遠」というのは、神の属性です。神にしかない性質ですが、ヘブル 9 章 14 節にこう書かれています。「まして、キリストが傷のないご自身を、とこしえの御霊によって神におさげになったその血は、どんなにか私たちの良心をきよめて死んだ行ないから離れさせ、生ける神に仕える者とするものでしょう。」とこしえの御霊、です。そしてこの箇所も、キリストがとこしえの御霊で父なる神にご自分の血を捧げられた、という三位一体の神が現れている箇所です。

そして、「偏在」という属性があります。新しい信者の学びをしている方々には教えましたが、「遍く存在する」という意味です。どこにでもいるということは、神にしかできません。そのことを聖霊はしておられます。「私はあなたの御霊から離れて、どこへ行けましょう。私はあなたの御前を離れて、どこへのがれましょう。たとい、私が天に上っても、そこにあなたはおられ、私がよみに床を設けても、そこにあなたはおられます。私が暁の翼をかけて、海の果てに住んでも、そこでも、あなたの御手が私を導き、あなたの右の手が私を捕えます。(詩篇 139:7-10)」天におられるのはもちろんのこと、陰府にさえもおられ、海の果てにもおられる方です。

時々、「聖霊がここにいた！」などという発言を聞きます。まるで、聖霊がおられないところがあるかのような物いいです。聖霊がおられないのではなく、聖霊が臨まれていない、つまり親しい関わりを人々の心の頑なさによって持つことができないという状態であります。

そして「全知」も、神の属性です。これは前回も読んだ聖書箇所ですが、「神はこれを、御霊によって私たちに啓示されたのです。御霊はすべてのことを探り、神の深みにまで及ばれるからです。いったい、人の心のかたちは、その人のうちにある霊のほかには、だれが知っているでしょう。同じように、神のみこころのかたちは、神の御霊のほかにはだれも知りません。(1コリント 2:10-11)」すべてのことを探っておられる御霊です。

そして「全能」も神の属性です。先ほど読んだ、処女懐妊の告知についての箇所ですが、ガブリエルは「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。」とありました(ルカ 1:35)。いと高き方の力を聖霊が持つておられるということです。その結果、神が受肉したのです。

そして、聖霊が神と呼ばれている箇所があります。初代教会で、しばらくの間、人々は財産を共有して共同で生きていました。アナニヤとサツピラは財産を売り払って、その金をペテロの前に出したのですが、実は一部の代金しか持ってきていません。ペテロがこれで全部なのかと問うと、そうだと答えたので、ペテロが言いました。「アナニヤ。どうしてあなたはサタンに心を奪われ、聖霊を欺いて、地所の代金の一部を自分のために残しておいたのか。それはもともとあなたのものであり、売ってからもあなたの自由になったのではないか。なぜこのようなことをたくらんだのか。あなたは人を欺いたのではなく、神を欺いたのだ。(使徒 5:3-4)」ペテロは、初めにアナニヤは聖霊に欺いた、と言いました。それから、「人を欺いたのではなく、神を欺いたのだ」と言っています。

つまり、聖霊が神であると明言しているのです。

2B 働き

このように聖霊は、神の属性を有しておられ、また神として呼ばれています。また聖霊は、神にしかできない働きを行われました。創造の働きを行われました。先ほど読んだ創世記 1 章 1-2 節ですが、「初めに、神が天と地を創造した。地は形がなく、何もなかった。やみが深いなる水の上にあり、神の霊は水の上を動いていた。」とあります。そして、「光よあれ」と神は言葉を使われて光を造られました。このように、聖霊が関わっておられます。そして、詩篇 33 篇 6 節を開いてください、「主のことばによって、天は造られた。天の万象もすべて、御口のいぶきによって。」御口の息吹がありますが、息吹と霊は同じヘブル語が使われています。ですから、神の御霊によって天の万象が造られた、といってもいいのです。

そして、聖霊は命を与えられます。「神は私たちに、新しい契約に仕える者となる資格をくださいました。文字に仕える者ではなく、御霊に仕える者です。文字は殺し、御霊は生かすからです。(2 コリント 3:6)」御霊は生かします、とあります。ヨハネ伝でも、イエス様は、「いのちを与えるのは御霊です。肉は何の益ももたらしません。(6:63)」と言われました。そして、御霊は私たちが肉の行いを殺しながら、私たちを生かしてくださいます。「しかし、もし御霊によって、からだの行ないを殺すなら、あなたがたは生きるのです。(ローマ 8:13)」

3A 聖霊による聖書

そして、聖霊の大きなもう一つの働きは、神の御言葉を与えるということでもあります。旧約聖書で主なる神が語られた、とするところが、新約で引用されている時に「聖霊が語られた」となっています。先ほど、イザヤに神が天の御座の幻をお見せになりましたが、その後で主が語られている箇所を読みたいと思います。「私は、「だれを遣わそう。だれが、われわれのために行くだろう。」と仰せられる主の声を聞いたので、言った。「ここに、私がおります。私を遣わしてください。」すると仰せられた。「行って、この民に言え。『聞き続けよ。だが悟るな。見続けよ。だが知るな。』(6:8-9)」主なる神の声をイザヤは聞きました。そして、これをパウロが引用した時に、こうなっているのです。「聖霊が預言者イザヤを通してあなたがたの先祖に語られたことは、まさにそのとおりでした。『この民のところに行って、告げよ。あなたがたは確かに聞きはするが、決して悟らない。確かに見てはいるが、決してわからない。(使徒 28:25-26)」

そして預言者エレミヤが言った言葉も見たいと思います。「彼らの時代の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうだ。…主の御告げ。…わたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心にこれを書きしるす。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。(31:33)」主の御告げとあるように、ヤハウエご自身が新しい契約について約束しておられます。それをヘブル書の著者はこう書いています。「聖霊も私たちに次のように言って、あかしされます。「それらの日の後、わたしが、彼らと結ぼうとしている契約は、これであると、主は言われる。わたしは、わたしの律法を

彼らの心に置き、彼らの思いに書きつける。」またこう言われます。(ヘブル 10:15-16)「聖霊が言っている、とあります。つまり聖霊が主なる神と一つにされているのです。

そして私たちは、日曜日の新しい信者の学びで読みましたが、聖書が神の靈感によって書かれたというものです。「聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。(2テモテ 3:16)」けれども、ペテロ第二 1 章の最後には、聖霊の導きによって著者はこれらの言葉を書いたと言っています。「なぜなら、預言は決して人間の意志によってもたらされたのではなく、聖霊に動かされた人たちが、神からのことばを語ったのだからです。(1:21)」ですから、聖霊は神なる方です。

4A 聖霊によって関わる神

私たちは、キリスト者の生活で力を欲しています。そして命ある関わりを神と持ちたいと思っています。だから、このように学びにも来られているのだと思います。そこで聖霊についての力や現われを求めていると、おられますが、その前に聖霊ご自身が誰であるかを知るのは前提中の前提です。聖霊は人格を持っておられ、神ご自身である。三位一体の神の第三の位格であることを知ることができました。

そして繰り返しますが、父なる神はキリストにあって私たちに近づいてくださいましたが、その真理を聖霊によって私たちにもたらしたいと願っておられます。「私たちが神の子どもであることは、御霊ご自身が、私たちの霊とともに、あかししてくださいます。(ローマ 8:16)」御霊によって、神と親密な関係、「アバ、父」と呼ぶことのできる関係に入っています。私たちは、霊、魂、肉体という三つの部分で造られています。父、子、聖霊という三つの人格で成り立っておられる神は、聖霊を私たちに遣わして下さり、私たちの内に入ってきて、私たちの霊と交わり、ゆえに主キリストとも、父なる神とも交わることができるようにしてくださいました。こんなすばらしいことはありません、この全宇宙を造られた方が、その中に交わりをもって一つになっておられる方が、私たちの内に来てくださっているのです！聖霊によって来てくださっているのです！

どうか、私たちが、神が願われているように聖霊で満たされますように。そして聖霊のバプテスマを受けて、生ける水が腹から溢れ流れるようになりますように。そして、イエス様の力強い、生きた証人となりますように。イエスを三度知らないと言ったペテロが、聖霊に満たされて、天下にはイエスの名以外には、救われるべき名は何一つないと言われた、その変化を与えられる聖霊に私たちが明け渡し、その満たしを受けることができるようお祈りします。